

ボランティア・ネットワークによるヘルスプロモーション活動 ー地域づくり型ヘルスボランティア「ヘルスボランティア会」 育成の取り組みー

渡辺 いよ子

足利工業大学看護実践教育研究センター

要旨

【目的】地域づくり型ヘルスボランティアを育成し、ボランティア・ネットワークによる活動への支援のプロセスから、支援の方向性を検討すること。

【方法】平成23～25年度の3年間の地域づくり型ヘルスボランティア育成時の会議録と活動結果の記録から支援の方向性を検討した。

【結果・結論】町の課題を共有したことにより、ボランティア・ネットワークが成立し、巻き込んだサークル並びにグループ数は16団体に及んだ。支援の方向性は、①ボランティア・ネットワーク成立の要因から、「ミッション性」「全体指向性と統合調整機能」他9つの要因があげられた。今後の研究課題として「前向き性・実行性」「楽しいこと」「異なる活動分野」である。②課題を共有するプロセスは、巻き込みとエンパワメントのプロセスである。個人と集団を意識し丁寧に大切に扱う必要がある。③健康観から、健康分野と生涯学習分野の連携した幅広い健康の捉え方が求められる。④ヘルスプロモーションの5つの活動の視点から、「健康的なライフスタイルづくり」と「健康的な環境づくり」を目指した支援を行っていくこと。今後の課題は、地域づくり型ヘルスボランティア活動に特徴的な機能を自ら明確にし、町の基本計画における目標を共有した活動となるように支援することである。

キーワード： ボランティア・ネットワーク，ヘルスプロモーション，地域づくり型ヘルスボランティア，地域組織活動，住民協働

I. はじめに

近年、少子高齢化・核家族化の進展、家族扶助・地域の相互扶助機能の低下等社会情勢の変化により、児童虐待や孤立死の問題、見守りが必要な高齢者世帯の増加等様々な社会問題が生じている。また一方では、阪神淡路・東日本大震災等によりボランティア・ネットワークが大

切であることをあらためて認識した¹⁾。これらは、地域の繋がりが希薄になってきていることと大きく関係している²⁾。地域の現状では、退職後の中高年の居場所づくりが行われ、様々な当事者グループの小集団によるボランティア活動が活発に行われ、地域住民の交流によるきずなの再構築が行われている。

WHOバンコク憲章によるヘルスプロモーションの理念から、住民主体で地域活動を強化しコミュニティに権限を与えることや、パートナーシップにより健康状態を改善することにより健康の平等性を確保するための政策と協力がコミュニティの発展における中心課題であるべきことが確約されている³⁾。地域活動においては、様々な人々や組織、関係機関を巻き込み、活動を展開発展させていくことが求められている。

千葉県S町は、平成23年度より住民協働の推進を図るために、様々なボランティア活動を展開している人々を「健康」という視点でつながりを持つ地域づくり型ヘルスボランティア会（以下、ヘルスボランティア会とする）として養成し、ソーシャルキャピタルの醸成を目指したボランティア・ネットワークによる地域組織活動を展開している。住民主体による地域活動の強化というヘルスプロモーションの視点から、高齢者の生きがいづくりと孤立しがちな子育て世代への支援を世代間交流を取り入れ行っている。これまで、様々な活動を行っている各種団体を健康という視点でボランティア・ネットワークを組織し活動を支援している事例報告はされていないことから、本研究では、地域づくり型ヘルスボランティアを育成し、ボランティア・ネットワークによる活動への支援のプロセスから、支援の方向性を検討することを目的とした。

S町の概況は、表1のとおりである。

表1 S町の概況

千葉県の北部中央に位置し、緑豊かな自然環境と温暖な気候に恵まれた小さな町。明治に町村制が施行され誕生してから独立独歩の町として現在に至っている。都心から50km圏内にあり新東京国際空港に隣接し、JR路線2本と、私鉄路線1本の4駅があり、鉄道や道路などの優れた都市機能を備え、昭和40年代後半から50年代にかけて住宅開発による急激な人口増加が見られ、それまで6千人であった人口が2万人を超えるまでになった首都圏のベッドタウン。高齢化率は23.0%で平成18年から平成23年の5年間に5.9%増加している。平成23年に実施した住民アンケート調査結果では、地域活動への参加状況について、「参加していない」が最も多く、地縁による地域意識等の低下が懸念される結果となっている。

II. 用語の定義及び解説

本稿では、以下の用語について定義及び解説を行う。

1. 地域づくり型ヘルスボランティア：行政の主催するヘルスプロモーション講座を受講し、健康なまちづくりのための主体的活動を展開するヘルス分野のボランティアである。地域の課題を意識したまちづくり活動を各種団体と連携・協力して行う。
2. 健康の社会的概念：「健康とは、社会的なアイディアである」はヘルスプロモーションの底流をなす考え方である。「健康の最大の敵は貧困である」といわれるように、公衆衛生上の諸問題の解決は、医学により提供された手段やその介入を超えたところにある。健康の決定要因は経済的、社会的要因であることを意味する⁴⁾。
3. ソーシャルキャピタル：社会資本のこと。信頼や助け合い、そしてグループ化・組織化・ネットワーク化の大切さを重視する概念⁵⁾。

III. 方法

1. 実施期間：2011年4月（平成23年度）から2014年3月（平成25年度）
2. 対象及び方法：「ヘルスボランティア会」を中心とした地域づくり型ヘルスボランティアによるボランティア・ネットワークの構成団体を対象とし、育成時の会議録と活動結果の記録からボランティア・ネットワークによる活動への支援の方向性を検討した。
3. 倫理的配慮：実践のまとめを行うに当たり、「ヘルスボランティア会」の役員会においてその趣旨や発表方法について説明を行い了承を得た。

IV. 結果

1. ボランティア・ネットワーク育成の目的及び位置づけ

「健康なまちS町」の創造に向け、団体や個人が、主体的に地域の課題解決に向けてネットワークを作り、継続的に世代間交流を通じた社会貢献活動を行うことが求められている。少子高齢社会に対応した、高齢になっても生きがい

を持って生き生きと暮らせるまちづくり、また子どもが健やかに育つことのできる子育て支援のまちづくりを住民協働の視点から行うことを目的とする。S町第4次総合計画第3期基本計画の重点施策のうち「協働プロジェクト」「健康プロジェクト」に対応した事業の位置づけとした。

2. 実施体制等

S町住民協働課が所管する町民交流サロン等において活動を展開している各種ボランティア団体や個人を対象に実施した。筆者は、平成23年度から25年度まで住民協働課に所属し、ボランティア・ネットワークの立ち上げを行い、設立後は事務局としてボランティア・ネットワークによる活動の支援を行った。

3. 取り組みの実施経緯

1) 3年間の取り組みの概要及び経緯(表2)

2) 平成23年度

(1) ボランティア・ネットワークが成立可能かを把握する準備会について

ボランティア活動連絡・学習会の立上げに向け、その趣旨や町の課題の周知そして方法について意見を聞き、ボランティア・ネットワーク成立の可能性を探る目的で開催した。対象は5団体からのメンバーと個人ボランティアの合計8名である。話し合いでは、ボランティア活動と生きがい、健康との関係の話が出た。また自分たちのボランティア活動は大切なことであり、そのためにボランティ

ア・ネットワークは必要であるが、調整するためのコーディネーターが必要である。出来そうなどころから繋がっていけばよいという意見等が出た。

(2) ボランティア活動連絡・学習会の設立に向けての会議の開催—町主催

準備会での結果を受け、ボランティア・ネットワークによるボランティア活動連絡・学習会を正式に立上げるために、8団体代表と個人ボランティア3名を対象に4回の会議を開催しその趣旨や町の健康課題、方法について説明を行った。設立趣旨から、町の課題解決のためには全町に広げて行すべき、また目的がはっきりしないのでネットワークは難しく必要ないという意見が出された。一方、みんなで一つになれば大きい力になる、町の課題が明確にされた以上みんなで一緒にやることはいいことだからまずやってみようという意見等が出された。8団体のそれぞれに所属するメンバーのボランティア活動連絡・学習会への参加については、本人並びに各団体に任せることとなった。第2回会議においてボランティア活動連絡・学習会の設立が了承され、第3回会議、第4回会議において役員の選出と会の名称が決定された(初年度参加団体:9団体と個人ボランティア、名称を「ヘルスボランティア会」とし、公益活動団体の拠点名が用いられている)。また、会議と並行して、子どもの交流ルームや保育園での子育て支援

表2 3年間の取り組みの概要・経緯

平成23年度(初年度) 地域づくり型ヘルスボランティアの会の 立ち上げと実践活動	平成24年度(2年目) 学び・話し合いによる実践	平成25年度(3年目) 話し合いと交流・巻き込み
(1) ボランティア・ネットワークが成立可能かを把握する準備会の開催(3回) 「ボランティア活動が健康づくりに繋がっている」「無理しないところから繋がっていけばよい」 (2) ボランティア活動連絡・学習会の設立に向けた会議の開催 ・会議の開催(4回)「一緒にするのは無理」「とにかくやってみよう」 ・健康ふれあい講座、視察見学 ・ボランティア活動連絡会の名称、代表者決定	(1) 「ヘルスボランティア会」の考え方を話し合いで決定 「健康なまちS町」「高齢者の健康づくり」 (2) 「健康なまちS町」のキャッチフレーズの誕生 (3) 高齢者の健康づくり活動の実践 「ぷらっとS町」「介護予防活動」 (4) 子育て支援活動の実践並びに先進地視察 (5) 町長との懇談会 行政の環境整備への要望について話し合い ・子育て支援ボランティアの活動の場の確保など	(1) 子育て支援ニーズ把握のための活動 子育て支援の多面交流ルームへ積極的参加 ↓ 世代間交流の楽しさの実感と子育て世代と友達になる努力 ↓ 子育て支援情報連絡会の設立 「ハロウィン・パーティ」の企画・実施 (2) 介護度重度化防止活動の展開 県主催の介護度重度化防止推進員養成研修を受講した会員による企画・実施

のための実践活動を行うこととした。

(3) 健康ふれあい講座の開催—町主催

講座は平成 23 年 11・12 月の 2 日間実施し、延べ 77 名の参加があった。内容は、「町の健康課題について」、「講演：健康づくりとボランティア活動」、「参加者によるボランティアグループの活動内容の紹介」、「健康なまちづくりの考え方とワーキンググループによる模擬的話し合い」である。3 つのグループに分かれての模擬的話し合いでは、高齢者の健康づくりに多くの参加者が集まり盛り上がったが、子育て支援の理想像のグループでは、子育て中の当事者の参加がないため話し合いが進まなかった。

(4) 視察見学（平成 24 年 1 月～2 月）

地域の課題に対しての NP0 やボランティア活動、行政の取組やその内容について学ぶ目的で町内外の介護予防事業（2 か所）や子育て支援事業（1 か所）の先進地の視察を他の団体にも呼びかけて行った。

3) 平成 24 年度

(1) 「ヘルスボランティア会」の考え方を話し合いで決定

「健康なまち S 町」「高齢者が生き生きと暮らせる町」の決定および実践：「健康なまち S 町」と「高齢者が生き生きと暮らせる町」の基本的考え方について、WHO の「健康」の定義や健康の社会的概念⁴⁾、ソーシャルキャピタル⁵⁾ についての学習を行い、そのうえで会員はそれぞれ夢や願いを語りあった。一方、「理想の子育て支援の町 S 町」については、子育て支援のニーズが把握できず先送りとした。

「高齢者が生き生きと暮らせる町」の基本的考え方を「健康の維持増進に不可欠なことは個人的・集団的を問わず、楽しく感性・理性を充たすことであり、そのためには家の中に閉じこもらず外に出て身体を動かすこと、向こう 3 軒両隣、世代を越えた付き合いにより豊かな人間関係を持つことである」と決定した。

(2) 「健康なまち S 町」のキャッチフレーズ

の誕生：

「明るいまちは挨拶から 住みよいまちはみんなの絆」他

キャッチフレーズをポスターにし、町内に掲示した。

(3) 高齢者の健康づくり活動の実践

①「ぷらっと S 町」の実施：町の魅力である名所・史跡を巡るウォーキングを通した仲間づくりを月 1 回行った。

②介護予防活動：保健センター介護予防特定高齢者施策事業の参加者を対象に、幅広い内容のアイデアによる活動を行った（年 4 回）。

(4) 子育て支援活動の実践並びに先進地視察

会員とその連携するボランティアメンバーは、積極的に保育園や子どもの交流ルームで七夕祭りやクリスマス会を開催し乳幼児や子育てグループとの交流活動を行った。自分達も楽しみながら子育て世代とのネットワークをつくる努力をした。また、民生委員が中心となり運営している V 市社会福祉協議会主催「子育てサロン」を役員で視察を行った。

(5) 町長との懇談会

町の子育て支援事業についての話を聞くとともに会の活動内容の説明を行った。また、子育て支援センターの設置やボランティアが自由に活動できる場や交流できる場、わかりやすい町のホームページなど、行政の環境整備の要望を行った。会員から町長との懇談会を継続して持つ必要があるという話が出た。

4) 平成 25 年度

(1) 子育て支援ニーズ把握のための活動

①子育て世代のニーズ把握のための活動を継続し、世代間交流の楽しさの実感と子育て世代と友達になる努力を行った。

②子育て支援情報連絡会の設立

町内の子育て支援に関係するボランティア団体の交流の場・情報発信の場として、地域子育てネットワークの形成により、地域全体で子育てを見守り安心して子育てのできる地域社会の実現、子育て支援活動の促進を図る

ことを目的として立ち上げた。設立に向け平成 25 年 4 月に子育て支援に関係する 9 団体にアンケートを実施し、6 団体より参加の申し出があった。会議では、子育て支援情報連絡会の役割について、横のつながりを持ちイベント等でお互いに手伝うなど助け合っているいつながりで他の団体にも声かけをしていく、3 か月に 1 回程度の意見交換の機会を持つことが決定された。自己紹介から、元気で好きなことをして過ごしている、笑顔でいれる町を目指して楽しんで活動をしている、「ヘルスボランティア会」に入会していろいろな人たちと知り合った、自分は人と人のつなぎ役をしている、等の話がされた。また、行政から、保健センターと子ども課の職員の出席があった。ネットワーク作りのためのイベントとして、ハロウィン・パーティの開催を決め実行委員会を組織し行った。当日悪天候にもかかわらず、一般参加者 246 名、ボランティア 41 名、行政 4 名の参加で大成功を収めた。会員、協力してくれた非会員、参加者、住民協働課の職員等関係者全員が満足し、16 団体による子育て支援のためのボランティア・ネットワークの構築を図ることができた。

また、大学生が考える「健康なまち」のプレゼンテーションを聞き交流を行った。

(2) 介護度重度化防止活動の展開

県主催介護度重度化防止推進員養成研修⁶⁾を受講した会員は、自分たちの活動が高齢者の健康づくりの支援となる事に気づき、町民を対象にした、住民の視点からの介護予防のための啓発活動を実施した。この活動に対する行政からの報償金を「ヘルスボランティア会」の活動費に充てることができた。

5) 結果のまとめ

(1) ボランティア・ネットワークの形成：町の課題の共有により、ボランティア・ネットワークが形成され活動が展開されている(図 1)。

(2) 高齢者の健康づくり：自分達で決定した基本的考え方に基き、ウォーキングの実践、介護予防活動として保健センター事業へ

の協力や介護度重度化防止推進員としての自主活動を展開している。

(3) 子育て支援情報連絡会の開催：

①ボランティア・ネットワークに巻き込んだサークル及びグループ数の増加

②ハロウィン・パーティ：16 団体+個人ボランティア、視察等による連携した行政並びに大学：S 町（保健センター、子ども課、住民協働課、保育園）、T 市、U 市、V 市社会福祉協議会、J 大学

③ボランティア・ネットワークによる活動が子育て支援地域ケアシステムのインフォーマルサポートシステムとなった。

(4) 町長との懇談会の実施

(5) 世代間交流の実践：子育て支援情報連絡会に子育て世代を巻き込むことが可能になった。

(6) 住民協働・連携の推進：行政の役割として、リーダーシップとネットワークづくりのきっかけづくり、活動費の財政的支援、コーディネート機能を発揮した。

V. 考察

本研究の目的であるボランティア・ネットワークの成立への支援の方向性について以下の 4 点から考察を行った。①ボランティア・ネットワーク成立のための要因からの考察に併せ、ヘルスプロモーション WHO バンコク憲章の定義「ヘルスプロモーションとは、人々が自らの健康とその決定要因を改善しコントロールすることができるようにするプロセスである」から、②主観的健康観（「自らの健康」は「主観的健康観」を指す）、③課題の共有（「決定要因を改善し」は「課題を共有することから」）④ヘルスプロモーションの「5 つの活動の視点」である。

1. ボランティア・ネットワークの成立した要因について

準備会とボランティア活動連絡・学習会での話し合いから、ボランティア活動と生きがい、ボランティア活動と健康との関係については抵抗なく受け入れることができると感じた。【地域への愛着】から、ボランティア・ネットワー

ボランティア団体の活動内容

- A : 楽器演奏と歌で交流
- B : 折り紙
- C : 民謡と病気予防の話
- D : 落語と読み聞かせ
- E : 健康なまちづくりサークル
- F : 紙芝居の制作上演
- G : 名所整備
- H : マジック
- I : 手話ダンス
- J : 子育て支援全般
- K : 歌等の子育てサークル
- L : 踊りの親子サークル
- M : 読み聞かせ
- N : 育児サークル
- O : 大学
- P : ダンス

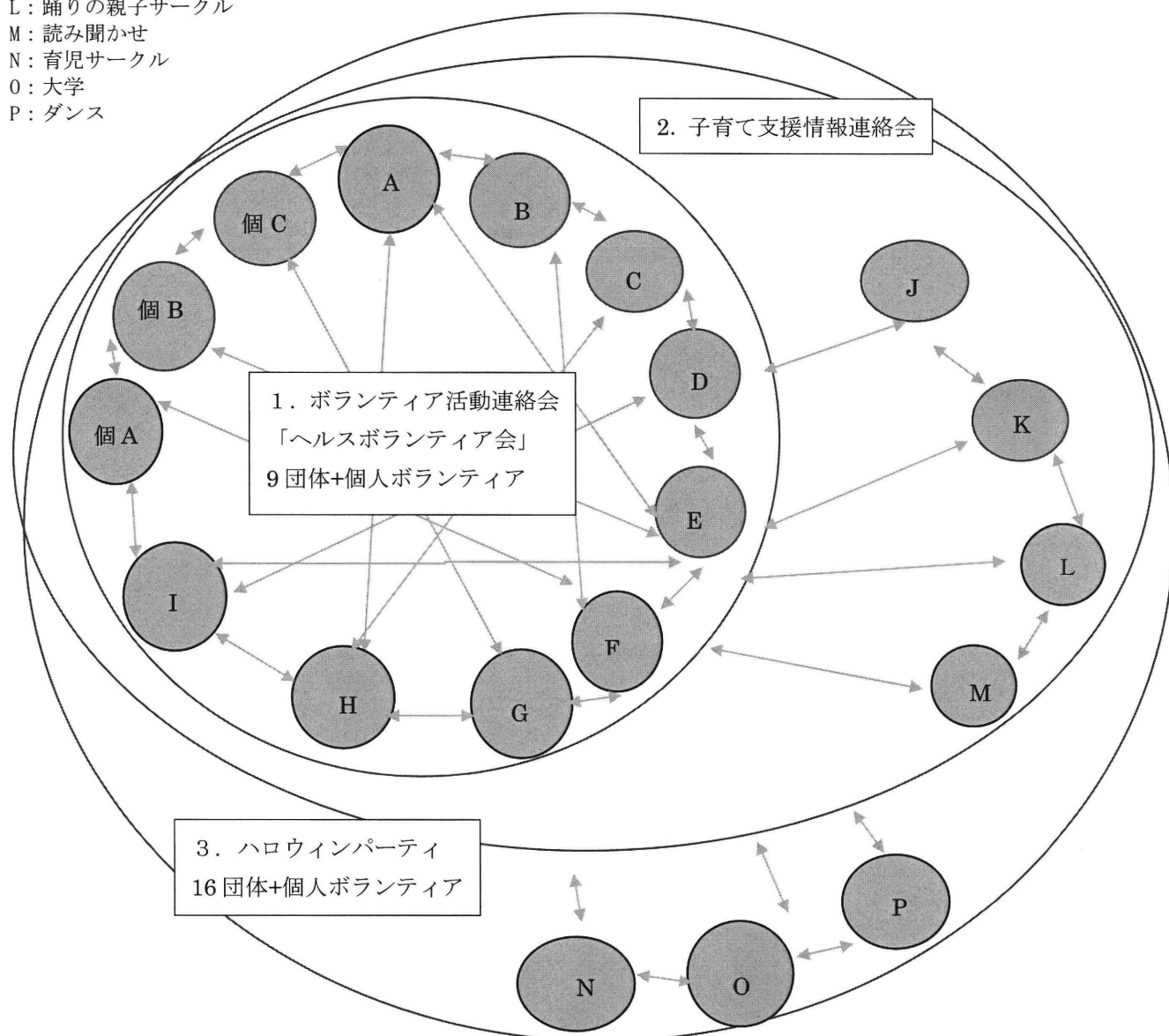


図1 ボランティア・ネットワークの広がり・交流の模式図

クの必要性を感じるが、調整するコーディネーターが必要であり、繋がりができそうなところから（【弱い結びつき】）やってみる方法が良いという意見や、反対にかなり難しいことではないかと思う、課題（【健康課題の性質】）が出されたからまずやってみよう等、実践者ならではの意見やアドバイスが出された。子育て支援については大半の参加者がその【ミッション性】としての重要性について一致した意見であった。これらの意見を参考に、「〇〇〇」という公益活動団体の【拠点】があり小グループを核にして広げたことや、其々のグループで「ヘルスボランティア会」の趣旨に賛同した人が加入し話し合い（【民主的運営】）したこと、ボランティア活動の「前向き性」や、できることから取り組む「実行性」を持つこと、さらに住民協働（【住民協働・連携】）を推進している行政からの介入であったため行政と一緒に活動できることに何らかの安心感や期待感等があったこと、行政からの財政的支援（【財源確保】）とコーディネーターとしての役割を得て行ったこと（【全体指向性と統合調整機能】）がボランティア・ネットワークの成立につながったのではないかと。「ヘルスボランティア会」設立時は9団体と個人ボランティアによる会であった。しかし子育て支援情報連絡会の設立やハロウィン・パーティなどの「楽しいこと」を、行政が支援する「ヘルスボランティア会」というボランティア・ネットワークが中心となって実施した（【リーダーシップ】）ことの理由により、16団体という多くのサークルやグループ、有志（【メンバーシップ】）と繋がることができたのではないかと。このことは、地域の課題を意識してボランティア・ネットワークによる取り組みを考えると、行政によるきっかけづくりや住民協働の推進が求められていることを示していると考えられる。一方、様々な活動分野のボランティアであったことからネットワークが成立したという意見が会員の一人から出されている。「同じ様な活動内容ではお互いにメンバーの引き抜きなどにつながりうまくいかなかった（異なる活動分野）」という経験を語ってくれた。

先行研究によると、ボランティア・ネットワークの成立・機能要因として、「ミッション性」「全体指向性と統合調整機能」「健康課題の性質」「拠点」「リーダーシップ」「メンバーシップ」「地域への愛着」「住民連携・協働」「民主的運営」「財源確保」「弱い結びつき」が挙げられている⁷⁾。本事例でも同様の結果であり、これらを意識した支援が必要と考えられるが、さらにボランティア・ネットワーク成立要因として、「前向き性・実行性」「楽しいこと」「異なる活動分野」が考えられる。「前向き性・実行性」については、準備会では、「できそうなところからやってみる」という発言が見られ、ボランティア活動連絡・学習会では、「まずやってみよう」という発言が見られた。また、子育て世代のニーズ把握のため積極的に子育て支援の交流ルームに出かけ子育て世代と友達になる努力をしたことがあげられる。「楽しいこと」については、準備会でもボランティア活動連絡・学習会、並びに子育て支援情報連絡会のいずれにおいても出席者から発言されている言葉である。これらについては今後の研究に期待される。

2. 町の課題の共有について

町の課題について、準備会やボランティア活動連絡・学習会、健康ふれあい講座、さらに視察研修による学習を行った。その上で自分たちが考える「健康なまちS町」のキャッチフレーズや「高齢者が生き生きと暮らせる町」の基本的考え方と活動内容を決定した。継続的な学習活動により町の課題が参加者全体で共有された結果、自己決定がされたのではないかと。

「高齢者が生き生きと暮らせる町」の話し合いでは、年代的にボランティア自身の問題でもあり話が盛り上がりスムーズに進んだ。「理想の子育て支援」の話し合いは子育て世代のニーズが把握できず最初から行き詰ったため、一時中断した。両者の交流の機会を作り、子育て世代を巻き込むための活動の実践を優先した。このことは、町の課題を共有するプロセスにおいて、身近な課題については共有がスムーズにいくが、そうでない課題については、実践しながら身近に感じられる環境づくりを優先すること

が必要であり、このプロセスが巻き込みのプロセスにつながることを示唆するものである。

また、町の課題を共有したネットワーク活動の展開により、自分たちのボランティア活動の方向性が見えてきたのではないかと考えられる。自分たちのボランティア活動はみんなにとっても大切なことで、この活動を多くの人に知ってもらい広げたいという思いで活動を行っている。それぞれの活動とネットワークによる「ヘルスボランティア会」や「子育て支援情報連絡会」での交流を通して信頼関係が構築され、個人がエンパワメントされ、さらに相互作用によりエンパワメントされたのではないかと考える。山崎⁸⁾は、エンパワメントの過程と参加・対話により「問題意識」と「仲間意識」が高められると述べている。本事例においても、町の課題を共有した活動が相互作用によりエンパワメントされることを示している。ボランティア・ネットワークの支援にあたり、課題を共有するプロセスは、巻き込みのプロセスでもありエンパワメントのプロセスでもあることから、個人と集団を意識し丁寧に大切に扱う必要があると考えられる。

3. 健康観について

健康の捉え方についての学習により、健康の捉え方が幅広くなったとメンバーの一人は話している。また、介護度重度化防止推進員養成研修を受講したメンバーは、自分たちの幅広い内容のボランティア活動が介護予防につながる事を学び、生きがいづくりとしての生涯学習分野を中心として、医学的健康づくりに捉われない健康を幅広く捉えた活動を行っている。準備会において、自分の特技を生かしたボランティア活動は生きがいであり幸せを感じることができ自分の健康づくりになっていると話したメンバーがいる。自分の特技—ボランティア活動(で前向きに生きる)—生きがい—幸せ—健康づくりという一直線上の活動を友の会のメンバーは行い、健康の捉え方を広げた活動といえる。そのことによりこの町に住んでよかったと幸せを実感できる健康なまちづくりに繋がると会員は話すようになった。ネットワークによる多彩な

活動内容を持つ「ヘルスボランティア会」が健康分野の地域組織活動としての地域づくり型ヘルスボランティアであることを、行政や町民に知らしめることに繋がっている。このことは、健康分野と生涯学習分野の連携した幅広い健康の捉え方の健康なまちづくり活動が求められることを示している。先行研究⁹⁾から、幅広い健康の捉え方をし、重複型の主観的健康観を持っている者はよい健康行動をとる傾向にあることから、良い健康行動をとる傾向がある可能性が示されている。

個人と集団の変化を意識し、健康分野と生涯学習分野の連携した幅広い健康の捉え方の支援の方向が求められているといえる。

4. ヘルスプロモーションの5つの活動の視点からの考察

上記1～3について、ボランティア・ネットワーク成立のための支援に求められることについて考察を行ったが、WHOヘルスプロモーションの視点から健康なまちづくりを推進するに当たり、5つの活動方法が示されている。これらの視点から今回の取り組みを振り返ることで、ボランティア・ネットワークによる活動を支援するものが意識しなければならないことを下記①～⑤にまとめた。

①「個人技術の開発」は、ボランティア活動が自らの健康づくりにつながる事を意識して会に参加し活動を展開していることである。②「地域活動の強化」は、其々活動を行っているグループがネットワークにより繋がり地域づくり型ヘルスボランティアとして、自らの健康なまちを自己決定し活動していることである。③「ヘルスサービスの方向転換」は、これまでの行政による医療中心の健康づくり活動ではなく、趣味や特技を生かした住民の考える楽しい健康づくりサービスを住民サイドから提供していることである。④「健康を支援する環境づくり」は、高齢者の健康づくりや子育て支援のためのイベントの開催場所を確保し実践していることである。また、次の⑤と連動し、子育て支援のための地域ケアシステムにおけるインフォーマルサポートネットワークの構築である。これは自立

した住民のまちづくりプロセスでもある。⑤「公共的政策づくり」は、町の政策である住民公益活動団体として登録した「ヘルスボランティア会」が中心となり、インフォーマルなサービスを提供しながら町全体の子育て支援のためのシステムづくりを目指していることである。ヘルスプロモーションの基本理念は「健康的なライフスタイルづくり」と「健康的な環境づくり」であり、最終的な目標である。今回の「5つのヘルスプロモーション活動モデル」から見ると、個人を中心とした健康づくりと、町が中心となり地域づくり型ヘルスボランティアを育成し自主活動が出来る環境づくりをしていることからヘルスプロモーション活動が出来ているといえる。先行研究では¹⁰⁾、ヘルスプロモーションの5つの活動の観点から実施されたフォローアップ教室の参加者は、参加を自己決定し自らの健康を維持できていることを報告している。このことから、ボランティア・ネットワークによる健康づくり活動を支援するものが、個人の「健康的なライフスタイルづくり」と地域の「健康的な環境づくり」を目指し、5つの活動方法の視点を意識した支援を行っていくことが求められることを示唆している。

以上4点から、ボランティア・ネットワーク成立への支援の方向性は、①ボランティア・ネットワーク成立の要因から、「ミッション性」「全体指向性と統合調整機能」「健康課題の性質」「拠点」「リーダーシップ」「メンバーシップ」「地域への愛着」「住民連携・協働」「民主的運営」「財源確保」「弱い結びつき」があげられ、さらに検討課題として「前向き性・実行性」「楽しいこと」「異なる活動分野」を意識した支援があげられた。②町の課題の共有から、課題を共有するプロセスは、巻き込みのプロセスでもありエンパワメントのプロセスでもある。個人と集団を意識し丁寧に大切に扱う必要がある。③健康観から、個人と集団の変化を意識し、健康分野と生涯学習分野の連携した幅広い健康の捉え方への支援の方向が求められている。④ヘルスプロモーションの5つの活動の観点から、個人の「健康的なライフスタイルづくり」と地域

の「健康的な環境づくり」を目指した支援を行っていくことがあげられた。

このことから、それぞれのボランティア活動を行っている団体を地域づくり型ヘルスボランティアとして育成しネットワーク化を図り、個人の自己実現としての生きがいくつから社会貢献活動へと変化させることは、住民の自立支援のプロセスである。また子育て支援のためのインフォーマルサポートネットワークの構築は、自立した住民のまちづくりプロセスでもある。公衆衛生における組織的取組において基盤となる方法であるといえる。しかし一方、全部の会員が、「ヘルスボランティア会」のネットワーク機能やコーディネート機能について明確に理解しているかどうかは明らかでない。今後の課題は、世代間交流を通して町の課題を共有するプロセスを丁寧に進め、地域づくり型ヘルスボランティアとして求められるネットワーク機能やコーディネート機能、リーダーシップについて会員の理解を深めていくことへの支援が求められる。また、ボランティア・ネットワークによる活動が信頼できるまちの資源となることにより、行政の職員の住民協働に対する意識改革を促すことにも通じる。町の基本計画において行政とボランティア・ネットワークによる住民が目標を共有した活動となるような支援を行うことが住民協働による健康なまちづくりに通ずるといえよう。

VI. 結論

町の課題を共有したことにより、ボランティア・ネットワークが成立し、巻き込んだサークル並びにグループ数は16団体に及んだ。課題を共有するプロセスの支援にあたり、個人と集団を意識し丁寧に大切に扱う必要がある事。ボランティア・ネットワーク成立の要因から、「ミッション性」「全体指向性と統合調整機能」「健康課題の性質」「拠点」「リーダーシップ」「メンバーシップ」「地域への愛着」「住民連携・協働」「民主的運営」「財源確保」「弱い結びつき」があげられた。さらに「前向き性・実行性」「楽しいこと」「異なる活動分野」を意識した支援

が考えられたが、今後の研究に期待される。健康の捉え方は、医学的健康づくりにとらわれず健康を幅広くとらえた活動を行っている。個人と集団の変化を意識し健康分野と生涯学習分野の連携した幅広い健康の捉え方の支援の方向が求められる。ヘルスプロモーションの5つの活動の視点からの活動内容であり、ヘルスプロモーションの基本理念である「健康的なライフスタイルづくり」と「健康的な環境づくり」を目指した支援を行うことが求められる。ヘルスプロモーションの視点からの健康なまちづくりは住民の自立支援のプロセスでもあり、公衆衛生における組織的取組において基盤となる方法であるといえる。

今後の課題は、地域づくり型ヘルスボランティア活動に特徴的なネットワーク機能やコーディネート機能を自ら明確にし、町の基本計画における目標を共有した活動となるように支援することである。

文献

- 1) 島内憲夫 (2011) : 人々の健康を支える資源～ヘルスボランティアの意義～、日本ヘルスプロモーション学会第9回学術大会・総会抄録集、13-16.
- 2) 内閣府 (2007) : 平成19年版国民生活白書、
http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/h19/10_pdf/01_honpen/pdf/07sh_hajimeni.pdf
(参照日 2011年5月1日)
- 3) 島内憲夫、高村美奈子 (2006) : ヘルスプロモーション～WHO: バンコク憲章 (初版)、順天堂大学ヘルスプロモーション・リサーチ・センター、千葉.
- 4) 島内憲夫、助友裕子 (2000) : ヘルスプロモーションのすすめー地球サイズの愛は、自分らしく生きるために！ー (改訂増補第1版)、15-19、垣内出版、東京.
- 5) 島内憲夫 (2008) : 行動科学からとらえた個人の行動、平野かよ子編、健康と社会・生活 (第2版)、161-163、メディカ出版、大阪.
- 6) 千葉県健康福祉部保険指導課 (2012) : 千葉県介護度重度化防止対策事業実施要領の制定について (千葉県健康福祉部保険指導課保指第833号).
- 7) 渡辺いよ子 (2014) : ボランティア・ネットワークの成立・機能要因に関する研究～WHOヘルスプロモーションの視点から～、看護学研究紀要、2(1)、1-10.
- 8) 山崎喜比古 (2009) : 「健康への力」に関する理論、中村由美子編、標準保健師講座2 地域看護技術、63-64、医学書院、東京.
- 9) 鈴木美奈子、島内憲夫、広沢正孝、他 (2012) : 主観的健康観が健康行動と健康状態に及ぼす影響～特定健康診査受信者を対象として～、ヘルスプロモーション・リサーチ、5(1)、12-23.
- 10) 内山孝夫、島内憲夫 (2012) : ヘルスプロモーションの観点を活かした介護予防事業修了者へのフォローアップ～身体と精神面に与える影響を中心として～、ヘルスプロモーション・リサーチ、5(1)、40-47.

The Health Promotion Activities by the Volunteer Network

The activities for training on the community development type of circle of health volunteer

Iyoko Watanabe

Education and research center for practical nursing, Ashikaga Institute of Technology

[Purpose] The activities for training on the community development type of circle of health volunteer and consider directionality of support from a process of support to activity by a volunteer network.

[Method] Directionality of support was considered from the minutes and the activity result which are at the time of the community development type of circle of health volunteer training from 2011 to 2014.

[Result and conclusion] The volunteer network was concluded by sharing a problem in the town, and involved club and members of group came to 16 groups. Directionality of support, ① Support conscious of "mission" "the whole directivity and integration regulating function" and 9 other factors from a factor of volunteer network formation. ② A process with which a problem is shared is a process of involvement and empowerment. You have to be conscious of an individual and a group and handle it with care importantly. ③ How to catch the wide health in which the lifelong study field cooperated with the healthy field is asked from the healthy look. ④ Support it aiming at "healthy lifestyle making" and "healthy environmental development" from the angle of 5 of activity of a health promotion. The future problem will be how to clear the characteristic function of community development type of health volunteer activity by oneself, and how to support the activity that shared an aim in the basic plan of the town.

Key Words: volunteer network, community development type of circle of health volunteer, health promotion, community organization, collaborations with residents